とんぼ通信１６６号

９月号
とうぼ小児科医院
臼杵市港町東１４組　TEL63-5811
HP ｱﾄﾞﾚｽ　http://www.tobobaby.com
発行責任者：　東保　裕の介
発行年月　：　平成３０年９月

首都圏中心に風疹流行のきざし！

今年に入って首都圏を中心に風疹の患者数が８月 22 日までに全国で 184 名となりました。これは去年一昨年の年間数をすでに超え、2013 年に大流行の前兆に類似した状況になっています。風疹はワクチンで予防できる病気です。今回は風しんと先天性風疹症候群のお話です。

Q1.　風しんとはどんな病気ですか？

風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症です。主な症状は発熱、耳介後部・後頭部などのリンパ節腫脹（図１）、全身の発疹（図２）、目の充血などを伴います。潜伏期間は 14～21 日(平均 16～18 日)です。ウイルスに感染しても明らかな症状の出ないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15～30%程度います。

Q2.　どのように感染しますか？

感染は主に飛沫感染で、くしゃみ・咳・唾液のしぶきなどの飛沫によってほかの人にうつります。接触感染もします。発疹の出る 1 週間前から症状が消えるまで感染力があり、症状の出ていない不顕性感染でも感染力があります。

Q3.　風しんの合併症にはどのようなものがありますか？

風しんは命にかかわることは少ない病気ですが、ごくまれに血小板減少性紫斑病や急性脳炎を合併します。子どもでは 2,000 人から 5,000 人に一人くらいの割合で発生することがあります。最も問題となるのは妊婦がかかった時に赤ちゃんに影響が出る先天性風疹症候群です。

Q4.　先天性風疹症候群とは？

先天性風疹症候群とは、妊娠 20 週までの妊婦に風しんウィルスが感染した場合に、赤ちゃんに影響が出て、難聴、心疾患、白内障（図３）など様々な臓器の障害がでることです。生後に発達の遅れがみられることもあります。先天性風疹症候群をもった赤ちゃんがこれら全ての障害をもつとは限らず、これらの障害のうちの一つか二つのみを持つ場合もあります。

Q5.　風しんの発生状況は？

かつては 5 年ごとの周期で大きな流行が発生していました。2012 年～2013 年には２年間で 16,000 人を超える全国流行となりました。約 90%が成人で男性が女性の約３倍多く、この流行の影響で 45 人の赤ちゃんが先天性風疹症候群と診断されました。

現在の流行状況は７月末から主に東京・千葉などの首都圏で風しん患者が報告されており、その多くは 30～50 代の男性です。

Q6.　予防方法は？

風しんワクチンを 2 回接種することでほぼ確実に予防できます。平成 2 年以降に生まれた方(28 歳以下)は定期接種を 2 回受けていれば、大丈夫です。現在 30 代～50 代の男性はワクチン接種をしていないか、接種回数が少ないため風しんに対する免疫をもっていない方が多くいますので、早めの接種をお勧めします。まずは母子手帳でワクチン接種歴を確認しましょう。

また、妊婦にはワクチン接種ができないため、風疹の抗体が陰性か低い方はなるべく人込みなどを避けるようにしましょう。

臼杵市の方は風しん抗体検査及び予防接種費用の助成が受けられます。

●抗体検査対象者 ⇒ ①妊娠を希望する女性とその夫 ②妊娠している女性の夫（パートナーを含む、婚姻関係は問わない）　助成額　上限 3,000 円まで

●風しんワクチン対象者 ⇒ 事前に実施した抗体検査で医師が予防接種が必要と判断した方。
助成額　上限 5,000 円まで

＊1 回のみの助成となり

図１

図２